島根大学プロジェクト研究推進機構 『萌芽研究部門』	平成２２年度	年度報告書	提出日 平成 23 年 2 月 14 日

① プロジェクト名	「出雲国」成立過程における地域圏の形成と展開にかんする総合的研究		
② プロジェクトリーダー	大橋泰夫	所属	法文学部社会文化学科
		電子メール	ohashi@soc.shimane-u.ac.jp

③ プロジェクトの概要（プロジェクトの最終年度における到達目標を簡潔に記入してください。）

本研究は、『出雲国風土記』に記述される地域的なまとまりが行政的に成立するに至る過程を、考古学および文献史学の史資料をふまえて通時的かつ実証的に把握しようとするものであり、地域というまとまりがどのようにして、いかなる背景をもとに形成され、展開したのか、そのメカニズムを探ることを目的とする。あわせて、出雲の成立や古代出雲にたいする認識が、古代から現代に至るまでそれぞれの時代や社会のなかでどのように形成され、変遷してきたのかを明らかにし、古代出雲の姿を多角的に説明することをめざす。

そのなかで、「出雲国」成立にかかわる重要遺跡のフィールド調査（廻原１号墳など）を実施して、そこで得られた新たな成果を研究に盛り込むとともに、広く研究成果を発信することもおこなう。

④ プロジェクトのメンバー及び役割

氏名	所属（職）	本年度の役割分担
（プロジェクトリーダー） 大橋　泰夫	法文学部社会文化学科・教授	研究総括、考古学的検討 出雲国府成立と出雲国形成過程の調査研究、国府関連遺跡の調査研究。廻原１号墳の調査研究（共同）。
大日方克己	法文学部社会文化学科・教授	文献史学的検討 国史・出雲国風土記・延喜式等の文献史料による出雲形成過程の調査研究、および中世・近世・近代における古代出雲や出雲形成過程に関する学問・思想の調査・研究。
山田　康弘	法文学部社会文化学科・教授	考古学的検討 先史
会下　和宏	ミュージアム・准教授	考古学的検討・普及啓発 出雲地域の弥生墓制と他地域墓制（日本列島・東アジア各地）との比較研究。先史～古代出雲の環境考古学的研究 「古代出雲」をキーワードにした普及啓発活動の博物館学的実践
岩本　崇	法文学部社会文化学科・准教授	考古学的検討 弥生・古墳時代における集団構造・集団関係形成についての調査研究、廻原１号墳の調査研究（共同）。
角田　徳幸	島根県教育庁文化財課古代文化センター・専門研究員	考古学的検討 廻原 1 号墳との比較検討のため、出雲国内と、関西・東日本における後・終末期古墳の現状把握。

⑤（1）本年度の研究計画目標の達成状況及び自己評価

（本年度当初の計画書に書かれた内容に沿って，計画と達成目標を箇条書きにしてください。また，その達成目標の項目ごとにその達成状況を記入し，以下の基準に従って自己評価して下さい。A:目標以上に成果をあげた　B:ほぼ目標通りの達成度で予定した成果をあげている　C:計画より遅れ気味であるが年度末には目標達成が可能である　D：年度末までに目標達成は不可能である。自己評価が B 以外の場合には，その原因についても記載して下さい。２～３月に行う計画のため未執行の場合には評価を空欄にして下さい。）

計画と達成目標	達成状況と自己評価
1. **計画**：先史から古代を射程に、プロジェクト推進担当者が分担、古代出雲に関連する史資料の現状についての確認作業実施。 **達成目標**：作業分担一覧表ならびに年間予定表の作成。	**(自己評価)B** プロジェクト推進担当が分担し、作業分担一覧表ならびに年間予定表の作成に着手した。また、「古代出雲」に関連する考古学資料・文献史料の現状確認を実施した
2. **計画**：史資料の閲覧・資料化を開始。データの収集を可能な限り進める。 **達成目標**：史資料データベース・リストの作成。	**(自己評価)B** (1)考古学的検討 ・江戸時代から現代までの弥生墳墓に関する文献リストを作成し，研究史についてまとめた。 ・出雲地域弥生墳墓の地域性について考えるために，同時代の日本列島他地域墳墓や朝鮮半島の原三国時代墳墓，楽浪漢墓に関するデータを整理した。 ・出雲国府関連遺跡について、全国的に関連資料の収集作業を行った。そのなかで伯耆国府、周防国府、出羽国府、美作国勝田郡衙（勝間田遺跡）等の資料調査を行い、遺構や出土遺物の現状把握を行った。 ・考古学的フィールド調査（松江市朝酌町所在の廻原１号墳）に関連して、出雲地域における古墳について現地調査を実施し、比較検討のために畿内（大坂府）の終末期古墳の現地調査も行った。このなかで、出雲の終末期古墳である鏡北廻古墳・若塚古墳の現況を確認した。関西では河内飛鳥の終末期古墳を踏査し、お亀石古墳など廻原古墳との関連性が考えられる古墳の状況を把握した。また、東日本では、各地に伝播した終末期古墳の様相を出雲と比較するために調査を行った。 (2)文献史学的検討 ・出雲国風土記の諸写本とその近世・近代における版本・注釈書・研究書の調査・収集、その他の延喜式・新撰姓氏録など古代出雲にかかわる史料とそれに関する近世・近代の写本・版本・注釈書・研究書の調査・収集、および松江藩による古代出雲研究としての雲州本延喜式の校訂・刊行とその中心人物藍川慎の著作の調査・収集作業を行った。
2. **計画**：考古学的フィールド調査の対象として、松江市朝酌町所在の廻原１号墳をとりあげる。 **達成目標**：測量調査報告の作成	**(自己評価)A** 「出雲国」成立にかかわる重要遺跡のフィールド調査として、廻原1号墳の調査を実施した。廻原1号墳の墳形が方墳であることを再確認し、隣接する廻原2号墳も含めて正確で広範囲の測量図を作成した。全国的に終末期古墳を検討する上で、重要な基礎データとなった。廻原1号墳については、春期（2/19ー3/30）に発掘調査を行い、墳形や規模等を確認する予定である（来年度刊行の『山陰研究センター』掲載予定）。

4. 計画：上記の廻原１号墳周辺の遺跡の状況について再確認する。あわせて、分布調査等で得られた資料や考古学研究室所蔵資料についても整理する。また、関連遺跡との比較研究を進める。 **達成目標**：測量調査報告に成果を併載	**(自己評価)A** 廻原１号墳周辺の遺跡の状況について再確認を行った。分布調査等で得られた資料や考古学研究室所蔵資料の整理作業に着手し、測量調査報告に成果を併載する作業を進めた。また関連遺跡との比較研究にも着手した。
5. 計画：ミュージアムと連携して、成果を広く市民・研究者に普及する。 **達成目標**：公開講座の開催、ＨＰによる情報の発信	**(自己評価)A** 後期にミュージアムと連携して市民講座（5 回）を開講し、広く市民・研究者に発信した。市民講座には毎回 60 名前後の参加者があり、情報発信として成功した。またＨＰによる情報の発信も行った。 廻原 1 号墳の発掘調査について、一般の市民や研究者に向けて現地説明会（3/26）を開催する予定である。

(2)プロジェクト全体の自己評価（プロジェクト全体としての達成目標から，今年度の研究成果がこれまでの経過・成果にもとづいてどの段階にあるのかを明示して下さい。また，各グループ間での連携状況についても記入してください。）

●プロジェクト全体評価（自己評価） プロジェクト全体としての達成目標に対する今年度の研究成果の達成状況について
（自己評価）
古代出雲の多角的な姿を解明するために、本年度は各メンバーがそれぞれ考古学、文献史学の検討作業として、古代出雲に関連する史資料の現状について確認作業を実施し、資料化を開始した。その成果の一端については、今年度中の論文で公表した。また、広く研究成果を公開するために、島根大学ミュージアムと共同で市民講座を開催し、研究者だけではなく市民にも分かり易く情報発信を行った。さらに、考古学的フィールド調査として、古代出雲の解明にとって重要遺跡の一つである終末期古墳・廻原１号墳の調査を行った。したがって、プロジェクト全体の達成状況については、萌芽研究の一年目としては十分な研究成果、活動内容であった。

●各グループ間またはメンバーとの連携状況
考古学、文献史学と分野が異なり、また大学外の研究員も含まれた学際的な研究組織であるが、複数回にわたって打合せを行い、研究の連携を計るように進めた。考古学分野における調査研究の核である廻原 1 号墳調査にあたっても、研究メンバーが相互に連携・協力して実施した。また、公開講座開催にあたっても、メンバー間で連携して発表を行った。

⑥ 公表論文，学会発表など（当該研究に関連した本年度の公表論文，学会発表，特許申請の件数を一覧表に記入して下さい。発明等に関しては，差し支えない範囲で記載して下さい。）

論文掲載（総件数）	23
学会発表（総件数）	8
特許出願（総件数）	

【内訳】
●論文（別途添付して頂く個人調書の中から年度末までに発行される学術雑誌等（紀要も含む）に掲載が確定しているものも含め，代表的なものを10件程度選んで記入してください。）

・大橋泰夫「地方官衙創設期における瓦葺建物の検討」『社会文化論集（法文学部社会文化学科紀要）』第 7 号, 2011. 3（掲載予定）， レフェリー無
・大日方克己「長元四年の杵築大社顚倒・託宣事件」（『アジア遊学 135　出雲文化圏と東アジア』、勉誠出版, 2010, 7）　レフェリー無
・大日方克己「九条家本延喜式紙背の国衙関係文書と国司」『社会文化論集（法文学部社会文化学科紀要）』第 7 号, 2011. 3（掲載予定），レフェリー無
・山田康弘「中国・四国地方の縄文集落の葬墓制」『縄文集落の多様性　第２巻　葬墓制』，雄山閣，2010. 7，レフェリー無
・山田康弘「集落と墓から想定される地域社会の様相－中国地方をケーススタディとして－」『季刊　考古学』

第 114 号，2011.2，レフェリー無
・会下和宏「弥生墳墓の研究史」『博古研究』第 40 号，2010.10，レフェリー有
・会下和宏「海況変遷と遺跡群③　宍道湖・中海」『縄文時代の考古学４　人と動物の関わりあい』同成社，2010.10，レフェリー無
・岩本崇「三角縁神獣鏡の仿製鏡」『遠古登攀－遠山昭登君追悼 考古学論集』，2010.6，レフェリー無
・岩本崇「島根県益田市四塚山古墳群出土の三角縁神獣鏡と「同笵鏡」」『社会文化論集（法文学部社会文化学科紀要）』第７号，2011.3（掲載予定），レフェリー無
・岩本崇「キコロジ遺跡出土木製把装具と刀剣装具の生産」『キコロジ遺跡発掘調査報告書（仮題）』，2011.3（掲載予定），レフェリー無

●学会発表（代表的なものを数件記入して下さい）
・大橋泰夫「考古学からみた郡垣遺跡」（雲南市教育委員会主催『大原郡家を考えるシンポジウム』於雲南市大東町鉄歌謡館,2011,3,27 予定）
・岩本崇「古墳出現期の地域と地域間関係」（『2010 年５月考古学研究会岡山例会』於岡山大学文化科学系総合研究棟２階共同研究室，2010,5,8）
・岩本崇「三角縁神獣鏡と古墳の出現・展開」（『日本考古学協会 2010 年度大会』於播磨町中央公民館大ホール,2010,10,17）

●特許出願

⑦外部資金獲得状況（当該プロジェクトに関連した外部資金について一覧の各項目に総件数，金額を記入して下さい。）

■外部資金獲得状況一覧		**件数**	**金額（千円）**
（1）科研費 （配分額は間接経費を含む）			配分額
（2）科研費以外の外部資金	**受託研究**		
	共同研究		
	寄附金・助成金		
	合計		

【一覧内訳】

（1）科研費（科目ごとに，テーマ，研究者，金額をそれぞれ列挙してください。）
（例）基盤（A）「研究テーマ」（研究者：〇〇　）〇〇〇千円
・大橋泰夫(研究代表者):平成 21ー23 年度科研・基盤研究（C）「古代日本における法倉の研究」200 万円(今年度 50 万円)
・大日方克己(研究代表者)：平成 21ー23 年度科研・基盤研究(C)「諸国公文・財政文書と受領の基礎的研究」160 万円(今年度 50 万円)(いずれも直接経費のみの金額)
・岩本崇(研究代表者):平成 22ー25 年度科研・若手研究（B）「前方後円墳成立期の青銅器生産とその製作技術系統」270 万円(今年度 80 万円)

（2）その他外部資金（一覧の項目別に，テーマ，研究者，金額を列挙してください。）
（例）受託研究「研究テーマ」（事業名）（研究者）〇〇千円

⑧その他特筆すべき成果（受賞，シンポジウムの開催，産学連携・地域連携に関する各種見本市，展示会への出展等も含む）

1. 島根大学ミュージアムとの連携事業

本プロジェクトの研究成果を広く市民・研究者に発信するためにミュージアムと共同で市民講座を実施した。毎回、60名前後が参加し、盛況であった。

平成22年度島根大学ミュージアム市民講座第2ステージ

考古学・歴史学が語る先史・古代の『出雲』（まつえ市民大学連携講座）

主催：島根大学ミュージアム・島根大学萌芽研究プロジェクト「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開に関する総合的研究」

共催：島根大学生涯学習教育研究センター・山陰研究センター

■第28回市民講座「弥生時代の絵画資料からみた『出雲』形成前夜の山陰地方」
講師：山田康弘（島根大学法文学部教授）
平成22年11月20日（土）　午後1：00～2：30

■第29回市民講座「古墳時代後期の出雲−石棺式石室を中心として−」
講師：角田徳幸（島根県古代文化センター専門研究員）
平成22年12月25日（土）　午後1：00～2：30

■第30回市民講座「弥生・古墳時代の地域と集団―出雲地域を中心に―」
講師：岩本　崇（島根大学法文学部准教授）
平成23年1月22日（土）　午後1：00～2：30

■第31回市民講座「考古学からみた『出雲国風土記』と出雲国府」
講師：大橋泰夫（島根大学法文学部教授）
平成23年2月5日（土）　午後1：00～2：30

■第32回市民講座「『出雲国風土記』所載神社の比定をめぐって」
講師：大日方克己（島根大学法文学部教授）
平成23年3月5日（土）　午後1：00～2：30（予定）

⑨ 本年度の主要な研究成果（図，表，ポンチ絵などを多用して，２ページ以内にわかりやすくまとめてください）

１：考古学の資料収集

先史から古代までの考古資料の確認作業と資料化を行い、来年度以降の研究につながる基礎資料の収集を行った。

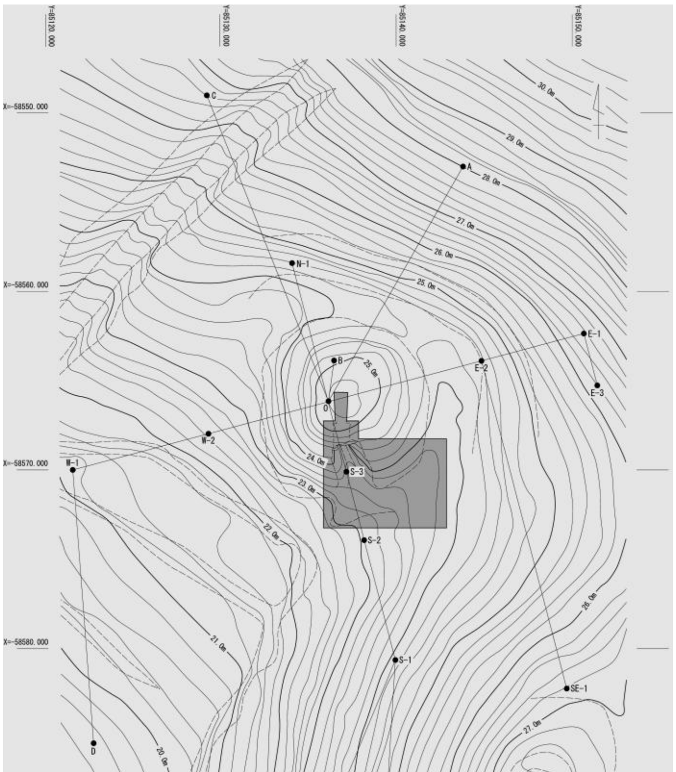
弥生墳墓に関する文献リスト、同時代の日本列島他地域墳墓や朝鮮半島の原三国時代墳墓、楽浪漢墓に関するデータ、古墳時代成立に関わる古墳出土鏡の写真撮影・データ作成、出雲国府成立に関わる基礎データ収集、関連遺跡の調査などを行った。

２：考古学的フィールド調査

「廻原１号墳の測量成果」

周辺を含めた 20 ㎝間隔の等高線による詳細測量図の作成を完了した。その結果、これまで以上に細部の状況や立地の特徴を明瞭に把握することが可能となった。１号墳については、いわゆる山寄せの一辺８－９ｍの方墳となり、典型的ともいうべき終末期古墳となる可能性を考慮しうる。埋葬施設である石槨はほぼ真南に開口し、石槨の中心部が墳丘の中心とほぼ重なる。さらに、１号墳の南東方向に別の古墳が存在し、時期の異同が問題となるが古墳群を形成することも明らかとなった。

今年度の春期（2/19ー3/30）に行う発掘調査で、墳丘の規模・時期等の解明を行う。



３：文献史学的検討の成果

■以下の史料の調査・収集（マイクロフィルム、デジタル画像、紙焼コピーなど）

①出雲国風土記

諸写本、近世における版本・注釈書・研究書

②古代出雲にかかわる史料－延喜式・新撰姓氏録など

諸写本、近世における版本・注釈書・研究書

③雲州本延喜式←松江藩による古代出雲研究の成果の一つとして刊行

中心人物藍川慎の多数の著作

□以下のような今後展開される研究の基礎資料となる。

①歴史的事実としての出雲の形成過程。

②出雲の形成過程や古代出雲に関する思想、イメージがどのように形成されてきたか。